

棚田に吹く風

2022
秋
Autumn
季刊

2 特集

棚田と鉄道

5 フォトエッセイ

日本の原風景

6 球磨村はムラまるごと棚田博物館！

山里の景観と棚田の魅力を発信しながら
地域づくりを展開中

熊本県球磨村

8 棚田BAR

生きもの屋の里山考

9 棚田博士は今日も行く

丹沢山麓の棚田

神奈川県秦野市名古木

12 読者のひろば

14 棚田俳壇

スタッフのつ・ぶ・や・き

15 Project Report





JR篠ノ井線（観光列車「ろくもん」）と姨捨棚田（長野県千曲市:日本三大車窓）2015年秋撮影 ©信州千曲観光局

棚田と鉄道

日本の原風景である棚田の春夏秋冬の情景を描いた巨大な壁画『棚田の四季』（株式会社ブレナス蔵）。作者の細川護熙氏（元総理）は、中学生の頃、どこか違う目的地へ向かっていたとき、電車を乗り過ごして姨捨まで来てしまい、駅で友達と将棋を指しながら一晩過ごしたことがあるそうです。月の夜だったらしく、知らず知らずのうちに姨捨の「田毎の月」を見ていたのでしょうか。この体験が作品にも影響を与えたのかもしれませんね。今回の特集は「棚田と鉄道」です。

写真提供…今井英輔、信州千曲観光局、宮崎県高千穂町



せんがまち棚田とJR東海道本線

「金谷く掛川間」

静岡県菊川市の「千榎の棚田」、別名「上倉沢の棚田」。つなぐ棚田遺産の一つでもある。上倉沢棚田保全推進委員会が棚田の復田を始め、現在は約300枚が耕作され、住民や子どもたちも参加して行う田植えや稲刈りは地域の季節の風物詩として定着している。東海道本線の車窓から展望でき、昔から旅人にとっても美しい農村景観として親しまれてきた。2015年5月撮影



江ノ串棚田とJR大村線「千綿く松原間」

長崎県東彼杵町里郷江ノ串の「江ノ串の棚田」。目の前に江の串漁港があり、漁港向かいの坂を500メートルほど上がると一帯は棚田になっていて大村湾を一望できる。大村線は早岐く諫早間47・6km、大村湾東岸を走る。青い列車はキハ200シーサイドライナー号（デザインは水戸岡鋭治氏率いるドーンデザイン研究所）。2008年10月撮影

鵜川棚田とJR湖西線「北小松く近江高島間」

今年、全国棚田（千枚田）サミットが開催される滋賀県高島市の「鵜川の棚田」は、琵琶湖西岸に連なる比良山系の麓に位置している。琵琶湖や、湖中の鳥居で知られる白鬚神社に近く、つなぐ遺産にも選定された。湖西線は近江塩津く山科間の74・1km。関西と北陸を結ぶ特急サンダーバードや東北・北海道方面への貨物列車などが走っている。2014年8月撮影



尾戸の口棚田と高千穂あまてらす鉄道

「高千穂〜高千穂鉄橋間」

神話の里として知られる宮崎県高千穂町には3つの棚田百選があり、その一つ「尾戸の口棚田」はつなぐ遺産棚田の一つでもある。16ヘクタール780枚の規模で2015年に世界農業遺産に指定された。JR高千穂線は延岡〜高千穂間50kmを結んでいたが、2005年の台風14号で被災し2008年12月に廃線となった。現在は高千穂あまてらす鉄道が高千穂〜高千穂鉄橋間（往復約5・1km）をスーパーカートによる遊具として定期運行を行っており、日本一高い鉄道橋・高千穂橋梁（高さ約105m）や尾戸の口棚田・栃又棚田を遠望することが出来る。



初瀬棚田と近畿日本鉄道大阪線「長谷寺〜榛原間」

奈良県桜井市にある初瀬の棚田は万葉集にも記され、約10ヘクタール、およそ200枚。近くの国道165号線からもその姿を見ることが出来る。近畿大阪線は大阪上本町〜伊勢中川間108・9km。伊勢中川駅から名古屋線や山田線に直通し大阪と名古屋および伊勢志摩方面を結び、多くの特急列車が運行される基幹路線の一つ。軌間1・435mm（標準軌）。33・3‰（パーミル）の連続勾配区間もありダイナミックな走りにファンも多いという。2011年9月撮影





フォトエッセイ

日本の

原風景

「古志の里」

写真・文
中條均紀

古志の里の棚田と棚池の割合は、徐々に棚池が増え半々くらいになったと思います。十五夜を過ぎたころ棚田では稲刈り、10月に入ると棚池では池上げ（鯉上げともいう）が盛んに行われます。池上げは棚池から育った鯉を引き上げ、品評会や売買取、あるいは越冬用などに選別します。

農薬の使用や機械化が進んだことにより、今ではほとんど行われていませんが、200年前の江戸時代の頃から稲作養鯉という田んぼの中で稲とコイを同時に育てる農法がありました。環境と調和しつつ雑草や害虫の被害を防げるのが最大の利点です。山間の水が豊富で錦鯉発祥の地「古志の里」にふさわしい正に環境と健康に配慮した農法といえます。

写真（朝霧湧く）は紅葉真っ盛りの朝の風景です。11月上旬の棚田棚池は前日の雨で水がたまり、紅葉も輝いていました。霧も発生し良いアクセントになりました。もう一枚の写真（喜びの池上げ）は、大きさ、色、形とも立派になった鯉と再会した瞬間です。

中條 均紀 なかじょう まさのり

1952年新潟県三条市に生まれる。1986年から写真撮影活動開始。1990年より東京富士フォトサロン等で個展を開催する。2002年新潟県美術展覧会無鑑査作家となる。2004年川口にアトリエShinlaを建築。2005年第14回林忠彦賞を受賞する。同年徹子の部屋出演。同年中越地震チャリティー写真展を全国50ヵ所以上で開催。出版物は『古志の里』『古志の里II』『山古志村再び』『古志の里春夏秋冬』他。現在、写真教室、コンテスト審査員、講演等の活動を行っている。



棚田・里山
からの
たより



球磨村はムラまるごと棚田博物館！ 山里の景観と棚田の魅力を発信しながら 地域づくりを展開中

令和2年7月の豪雨災害

球磨村は熊本県南部の人吉・球磨地方に位置します。村の面積は207.7平方kmで、約90%が山林です。村の中央を日本三急流のひとつ球磨川が横切り、大小無数の谷川が注いでいます。その谷川沿いに78の小集落が点在しています。村では昭和48年に鍾乳洞「球泉洞」が発見されたことでも知られています。

村の主な産業は林業と農業です。農家のほとんどが兼業農家で、女性の方々の就農に支えられながら、家族総出で小面積の田畑を守り続けています。田畑のほとんどが山間地にある耕作条件の不利な棚田や段々畑です。

球磨川沿いの平野にある条件有利な水田は令和2年7月の豪雨災害でその多くが砂礫に覆われる甚大な被害を受けました。2年経った現在でも復旧がなされていません。豪雨災害以降、これまで以上に集落

熊本県球磨村

の維持や棚田の保全に熱心に取り組むようになりました。災害後の荒廃した風景を目の当たりにして、改めて集落景観の価値を再認識したのです。

つなぐ棚田遺産に認定

球磨村の棚田の多くが傾斜10分の1以上の急傾斜で、それゆえ段差が大きく零細な区画の棚田が卓越します。棚田を維持するのに22年前に始まった中山間地域直接支払制度の集落協定に当初5集落が参加し、これら集落で球磨村棚田保存会が発足しました。全国的に集落協定数が減る傾向のなかで、球磨村の協定数は現在9まで増えています。

そして2年前、棚田地域振興法が新たに施行されたのをきっかけに、球磨村棚田地域振興協議会が棚田保存会を構成する9棚田を母体として発足しました。今年3月には農水省の「つなぐ棚田遺産」にこれら9棚田が球磨村棚田群として認定



1:山腹斜面型（松舟棚田）／2:夏場の鬼の口棚田／3:河岸段丘型（大瀬棚田）／4:谷底平野型（高沢棚田）
5: 地域を紹介する多様なガイドブックに興味が湧く／6・7: 稲刈り体験

されています。指定柵田計画、ムラまるごと柵田博物館計画の策定や、2冊の柵田ガイドブック、3冊の集落巡りガイドブックの発刊等により、多様な主体を巻き込みながら柵田の保全と地域づくりに取り組みようになりました。

各柵田の個性はさまざま

つなぐ柵田遺産にエントリーし認定された「くまむら柵田9(ナイン)」の9つの柵田はそれぞれ異なる性格を有しています。地形により立地条件が異なることが、以下の3パターンで個性の違いを生み出しています。

①山腹斜面型・山の斜面にある雑木を伐採し、木の根を掘り起こして造成された。日本百選に選ばれた鬼ノ口柵田、松谷柵田の2つのほかに無田久保柵田、田代柵田、松舟柵田の計5つ。

②谷底平野型・川の流れが石や砂を堆積させてできた谷底の平野を開拓して造成された。那良柵田、高沢柵田の2つ。

③河岸段丘型・大昔川底だったところが長い年月を経て隆起した乏水

性の高台を開拓して造成された。每床柵田、大瀬柵田の2つ。

每床地区の用水路「每床溝」は、那良川の上流から用水を引くために、江戸時代後期に測量をして手掘りで造られました。提灯を片手に大きな声を出し右や左と言いながら岩盤をくり抜き、全長8kmの水路を完成させています。

每床溝は今でも地区の柵田や梨畑を潤しています。每床の梨は一勝地梨として有名です。歴史ある用水路が今も集落内を流れ、家ごとに洗い場を持ち、水神様が祀られお花が飾られています。

ムラまるごと柵田博物館計画を展開中

球磨村柵田地域振興協議会では、柵田にひまわりや菜の花を植えたり、柵田オーナー制度、柵田米のブランド化などの取り組みを始めました。また、交流人口と関係人口の増加をもくろんで「くまむらムラまるごと柵田博物館」づくりを実践中です。

日本柵田百選の松谷柵田と鬼ノ口柵田の2つを含めた「つなぐ柵田遺産」の9柵田をメインの展示柵田

とし、そのほかの村内の個性的な景観に優れた柵田をも展示柵田とする野外博物館です。

柵田景観が、先人たちの生活や生業の営みの過程のなかで誕生したことを地元的に紹介することに加えて、各柵田を観光資源や環境教育の場として活用しながら地域づくりを目指します。お金をかけず手づくりで交流の機能を発揮しようと、案内冊子、柵田巡りのコースの制作等を先行させて、ムラの柵田を歩いて観て楽しんでもらえるよう仕掛けています。

(大無田恵子・くまむら山村活性化協会事務長)

柵田へのアクセス

【公共交通】 JR新八代駅前より高速バスで約40分のバス停「人吉IC」下車。ここから球磨村中心部へはタクシー利用で約20分

【自動車】 九州縦貫自動車道の人吉ICより国道219号線経由で八代方面へ約20分。八代～人吉間の一般道、鉄道は不通区間が多いので要注意

お問い合わせ

一般社団法人 くまむら山村活性化協会
Tel & Fax. 0966-32-0170



左:集落内を流れる「每床溝」と洗い場 / 右上・右下: 柵田を散策





棚田を醸して20年「純米吟醸 里山」福井弥平商店

琵琶湖のほとりの棚田百選、高島市の「畑の棚田」で収穫されたコシヒカリで、日本酒造りが始まったのは、今から20年前のこと。かつては湖畔一帯に見られた棚田も今では貴重な存在になり、当たり前風景が、守らなければ消えていく風景であると実感した当地の老舗酒蔵が、棚田で獲れたお米からのお酒造りにチャレンジした。

わざわざ棚田で酒米を作ると棚田全体のリズムに影響が出てしまうため、飯米のコシヒカリで酒を造る難題に挑み、工夫を重ね味を磨き、これは以後の各地の棚田酒のお手本として指導も行うほどになった。

棚田の酒オーナー制度も年を重ね、自ら汗をかって作った棚田米で醸したお酒を味わうファンを生み出し続けてきた。この景色を守るために、できることをやる。その一心で、蔵人が醸し続けているお酒。当蔵の特徴である、やわらかい、やさしい味わいが際立ちます。

私たちにできることは、このお酒で乾杯すること！この秋、全国棚田サミットの会場となる当地で、全国の棚田ファンに味わっていただきたい一品です。



●ネットショップ <https://haginotsuyu.shop/>



Tanada BAR

生きものの屋の 里山考

文 (株)環境指標生物 高木圭子
写真 (株)環境指標生物 志賀弘貴

ひつつき虫にご用心

年中野山を歩き回る私たち生きものの屋も、やっと熱中症への警戒を緩められる季節になりました。しかし秋も油断は禁物です。蜂や熊への警戒はもちろん必要ですが、あなどれないのが「ひつつき虫」です。「虫」とは言っても、その正体は植物です。皆さんも野山を歩いていたら、いつの間にか服に植物の実が大量にくっついて、ちくちくした経験がありませんか？あれが「ひつつき虫」です。小さなかぎ針や刺、粘液などで服にくっつき、簡単には取れません。里が実りの秋を迎える頃、植物の実りであるひつつき虫も当然、たけなわです。

ひつつき虫は、自力で移動できない植物が、人や動物に種子を運ばせるための仕組みのひとつで、「付着動物散布」といいます。散布の担い手が行き交う棚田周辺の里山など、日当たりのいい草地に生育します。いろいろな種類がありますが、雲囲気はよく似たものが多いです。膝から腰くらいの高さで、目立たない細長い穂を長く伸ばすなど、概して地味な佇まいです。できれば遠慮したいひつつき虫なのに、目立たないので、ちよつと他に気を取られて油断するとこっそり取り付かれてしまいます。同じ動物散布でも、「見つけて食べてもらって種子を運ばせる」戦略をとる「被食動物散布」の植物の、秋を彩る色鮮やかで香り高い果実(こうしたものが作物化されたのがいわゆる「果物」です)とは対照的です。

煩わしいひつつき虫ですが、彼らが生育できるように日当たりのいい草地は植物からすれば、いつ刈られるか分からない反面、人が干渉を止めれば数年で樹木が入り込んで樹林化する、長い目で見ればとても利根的な環境です。それゆえ彼らは常に移動し、新天地を探し続けているのです。



秋の「ひつつき虫」の代表選手、オオオナモミ

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の 全国棚田行脚

丹沢山麓の棚田

神奈川県秦野市名古木



なかしま みねひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO 法人棚田ネットワーク代表。全国棚田(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部歴史科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田—保全への取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以上、古今書院)。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。

ば現地に到着する。

ポスト棚田百選といわれる「つなぐ棚田遺産」が2022年3月25日に農林水産大臣により認定された。コロナ禍の下、遠出が自粛されている折柄、わが家から小田急線のみで、しかも約1時間で到着できる秦野市を「つなぐ棚田遺産」探訪の第一号として選び、2022年4月上旬に訪ねることにした。

秦野市は、県の西部、丹沢山麓の

田園都市、かつては水無川の扇状地で栽培される葉たばこの生産地として知られていたが、最近では東京・横浜圏へ通うサラリーマンの住宅地としての役割が大きく、両都市圏の衛星都市の一つになっている。難読地名である名古木は市の中心部からわずか2・5^{キロ}の地点にありながら、丹沢山麓にあつて、田畑が拡がり棚田もある農村景観が残っ

ている。しかし、市街地に近接しているため、市街化調整区域内にある白地の農地という特異な地目であり、新しく選ばれた271の「つなぐ棚田遺産」のなかでも大分県別府市に2例あるのみだ。白地の農地の場合、農水省の直接支払などの支援を受けることができないため、市当局は保全活動に対し特別の配慮が必要になるだろう。

丹沢山麓、南斜面にある 40枚弱の棚田

秦野駅から名古木までは駅北口4番乗り場から出る丹沢山麓養毛またはヤビツ峠行きの神奈川中央交通バスを利用することができる。毎時1〜2本はあり、辺鄙な棚田地域のなかでは便利な方だ。上原入口で下車、集落内の道を10分ほど歩け

る。車の場合、北口正面から直進、すぐに水無川に至り左折、さらに右折して大川橋を渡り、丹沢登山の起点になるヤビツ峠を目指し県道704号を北上する。活気のない中心商店街、そしてそれを衰退させたイオンモールを左手に見ながら進むと名古木の交差点。さらに直進、県道70号を北上すると上原入口のバス停。10^分ほど先を右折、集落内の道を登った後、竹林に囲まれた小川まで下り、左折して川沿いの小道を進むと農地が姿をあらわす。やがて二股に分かれる道を左へ、坂を下ると名古木の棚田だ。

棚田は丹沢山麓の標高374mのピーク南斜面、標高1300〜1700mに拓かれている。北斜面は東京CCのゴルフコース、いかにも首都圏にある棚田という雰囲気。傾斜は7分の1程度が、一見台地の谷間にある谷地田のようにも見えるが、正面に丘陵山頂を望み、溪流がかなり深く谷を刻んでおり、むしろ山地斜面型に分類される棚田である。

溪流を中央にして右岸側に本田9枚と新田5枚、左岸側に向田10枚があり、その上流に地元農家が耕作する6枚、最上流に北田8枚がある。本田は苗床にするのかすでに水が入っており、2mほどのものが2枚、あとの7枚は1m以下と小さく、法面の土坡の高さは1m以下で

ある。新田は2mほどの田が1枚あるが、そのほかは小さく1mに満たず、土坡の高さも数十cmのものが多く、向田はすべて1m未満の小さな棚田で3段になって10枚ほどある。地元農家の関野光治さん75歳が所有する棚田はかつて結仲間であった近隣の農家の人たちと一緒に耕作されているそうだ。北田は一枚が1・5×2・0mの長方形で形が揃っており、土坡の高さは数十cmにすぎない。

特筆すべきは、本田と新田を潤す手作りの灌漑施設があることだ。溪流が谷を深く刻み始める前の上流側に竹と木で櫓を組み川床には漏水を防ぐためビニールシートを敷いた堰をつくり、パイプで貯留槽へ

導水した後、用水路とパイプを利用して本田と新田に灌漑水を送っている。向田は湧き水、北田は溪流から直接引水しているそうだ。

「丹沢ドン会」の誕生

これらの棚田で保全活動を行っているのは片桐務さん72歳が理事長を務めるNPO法人自然塾丹沢ドン会である。片桐さんは新潟県長岡市の出身。実家は市の郊外、信濃川左岸下川西で水田3畝を所有する農家であった。しかし次男だったので長岡高校卒業後上京、大学を経て「ぎょうせい」に入社、17年間勤めた後、1988年自宅のあった秦野市で出版社「夢工房」を立ち上げ、神奈川県西部の自然・歴史・文化、

児童文学、小田原ライブラリーに関連する圖書の出版を行ってきた。

1992年片桐さんのほか作家・彫刻家・中学教師・飲食店主・公務員・画家の卵など7人の侍が丹沢ドン会を結成、丹沢の自然と人間を愛する会の活動を開始した。メインの活動は年1回、11月に丹沢の自然と都市の暮らしをテーマにしたシンポジウムを開催、そのほか山小屋の主人と協力して丹沢の登山道の整備を行い、山麓でソバを栽培するなどの活動が10年間にわたり続けられた。

2001年、会はNPO法人自然塾丹沢ドン会として脱皮、翌年の2002年から名古屋での活動が始まった。丹沢自然塾は入会金3000円のほか行事への参加費



1・2：菜の花も咲く棚田／3：自作の簡易灌漑施設／4：左から設備担当の浜田達蔵さん、畑担当の石井秀明さん／5：理事長の片桐務さん／6：水田担当・金田克彦さん

500円が必要。会員数は130家族、秦野市民が4割、残り6割が神奈川県民と東京都民だそうだ。活動は、年間を通して土曜日とされ、毎回30〜40名が参加、その回数は50日以上に及ぶという。

初年度は集中してカヤ・ヤナギが繁茂するやぶ払いが行われ、本田8枚が復田された。その後も水田耕作を続けながら復田作業は続き4年後に向田、10年後に新田、最後の北田はようやく数年前に復田が完了、現在の収穫量は650㎡だそうだ。かつての地権者は8名、その年の収穫量により米5〜20kgを届けているが、涙を流して感謝されたこともあったという。所有する農機具は耕転機・脱穀機・チップパー・くわ・スコップなどにすぎない。

現在、運営は14名の理事で構成される理事会を中心に進められているが、畑仕事や日常活動では女性パワーが全開する。実際には水田・畑・林野担当に分かれて作業が行われる。水田はナンバー2の専務理事金田克彦さん77歳が中心、東京都杉並区在住で現役時代は生保の会社員。18年前に奥さんに連れてこられた第一期生、今や会を代表する百姓

だ。これを助けるのが理事の可児康一郎さん53歳、小田原のかまぼこ会社に勤める現役であるが、種籾の塩水選や棚田の補修作業を得意としている。

畑担当の理事は石井秀明さん71歳、横浜市旭区から通ってくる。女性の参加者が多く、ナス・トマト・ホーレンソウ・ジャガイモ・ハクサイ・キャベツなど40種以上の野菜を栽培。林野担当理事の安富俊郎さん61歳も横浜市民、現在も周辺林野、ことに竹林の伐採を続けている。井堰を作った設備担当理事の浜田達藏さん76歳は秦野市民、H製作所のエンジニアだったそう、多士済々のメンバーである。

東と西に都市住民を中心に活動する団体

ところで、丹沢ドン会の活動をフォローしているうちに、同じような活動をしている「いこま棚田クラブ」のことを思い出した。奈良時代難波と平城京を結ぶ最短の道路として知られる「暗越の道」（現在の国道308号）沿いにある生駒市西畑の棚田で活動する組織。クラブは会費の徴収もなく、名簿もなく、毎

月第1・3・5の日曜日と第2・4の月曜日が活動日として決められているだけ。毎回30名前後の人が集まり、放棄されていた棚田15枚を復田、田圃班・畑班・菜の花班・椎茸班などに分かれ、1〜2名の幹事がリーダーとなり作業を行っているクラブだ。

東西の大都市圏におけるこれら2つの団体の活動は、都市化の波にあらわれて担い手がいなくなり、消滅の危機にある近郊農村の棚田を救う有効な方策になりうるのではないだろうか。



【公共交通】 小田急秦野駅北口から神奈川中央交通バスの丹沢山麓蓑毛またはヤビツ峠行きに乗りバス停上原入口で下車徒歩10分程

【自動車】 東名高速「秦野中井IC」または新東名高速「秦野丹沢スマートIC」から秦野駅まで15分ほど。駅周辺の駐車場を利用し、バス便にて棚田へ。棚田周辺への車両直接乗り入れはご遠慮下さい。



丹沢ドン会の棚田マップ



「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください！「ご要望、感想やご質問でもOK！」(声800字まで、レポート400字まで。写真も添えて) 〒一六〇〇〇三 東京都新宿区西新宿七ー一八一六 トーシンハイム七〇四号「棚田に吹く風 読者のひろば」宛 メールでも受け付けています ↓ hiroba@tanada.or.jp

日本初! 田んぼテーマパーク への挑戦

佐賀県伊万里市 吉武 亮



子どもの頃、てっぺんから下まで一斉に飛び降りる田んぼ飛び競争では、高さに躊躇しそうになっても勇気を振り絞って飛んでいました。そして、稲刈り後の田んぼで缶蹴り、鬼ごっこ、夢中になりすぎて肥溜めに片足を突っ込んだことも(笑)。こんな風に田んぼといえば楽しいという思い出が私の心には残っています。

しかし、田んぼといえば、後継者不足、きついばかりで米をつくっても儲からない。そんな声が聞こえてきます。果たして、本当にそうでしょうか？

私は、20歳から健康づくりの運動指導に携わり40歳の時に健康とは「日本の米づくりそのもの」ということに辿り着きました。なぜなら健康という字は、丈夫な体で、生きるための米を皆で収穫し喜んでいた様子を表しているからです。

そんな田んぼを身近に感じる暮らしを取り戻すために始めたのが、炭山の棚田(佐賀県伊万里市)で取り組む「棚田で健康学校」です。層にまつわる健康の話、坂道を活かした棚田歩きや休耕田での農体験などを月一回のペースで開催し、健康づくりに取り組んでいます。

顔ぶれも小学4年生から84歳と幅広く、昔



水田で行うストレッチと向日葵の種まき

の日本の農村のように皆が協力して一つのことに取り組む農のある暮らしが体験できます。参加者の声で一番多いのが、自然の中で体を動かすととても気持ちがいい、楽しかったという声です。

このような声をもっと多くの方に広げるために任意団体「すみやま農らいふ」を立ち上げ「日本初!田んぼテーマパークへの挑戦」を旗印に、「棚田で健康学校」だけでなく棚田キャンプの運営も始めました。今後は、棚田や田んぼのできる楽しいこと(昔遊び)を中心に美しい炭山の棚田の景観をつないでいく活動に會員の皆様と一緒に取り組みます。

最後になりますが、子どもたちに「棚田や田んぼは楽しい場所だよ」と大人がまずは胸を張って言えるようになれば日本の農村課題の解決につながるのでは?と信じています。興味のある方、ぜひ一緒に取り組みましょう!

■すみやま農らいふWEBページ

<https://sumiyama.kenko-dk.jp/>



石部棚田 静岡県松崎町

静岡県 伊豆の国市 小林 亮

「ここに来るとみんなにまた会える」そんな安心感を与えてくれる棚田は、人と人とのご縁を結ぶパワースポットのような場所でした。写真はコロナ禍以前の2019年5月に行われた石部棚田での田植祭のひとコマです。子どもも大人も、都会の人も地元の人も、自然と笑顔になれる百笑(ひやくしょう)の里。富士山と駿河湾を一望する景色はもちろんのこと、作業の後の温泉や海の幸もまた魅力的な棚田なのです。コロナ禍以前のにぎわいが1日も早く戻ることを心から願っています。



本物の棚田風景を目指して

長野県池田町 大門 正明

大町市美麻の山奥の静かな、余計なものは何も見えず棚田の向こうに北アルプスが見える。そういう風景を再現したくて2010年に復田にとりかかり、昔あったはずの棚田群のほんの一部だが現在25枚の棚田を戻せて米作りをしている。一部には、写真のように急斜面に小さな田んぼが並ぶ、地主さん曰く「江戸時代のままみたい」などところもある。ほんとに狭くて、畦はすべて曲線、機械も入れず非効率の極みだが、畦塗りに始まり稲刈りに至るまでの全ての作業が人力ですぐできてしまう。実に楽しい。

田んぼ作りも米作りも今は亡き地元の師匠に習った。最初は教えられるまま化学肥料をかなり使った（農業だけは最初から拒否して使わなかったが）が、2年やって、昔はなかった化学肥料で育てた稲では偽物の景色ではないかという疑念がわいて、3年目からは堆肥に変えた。直後は稲の育ちが悪く収量激減したが、その後徐々に回復してきた。

しかしまだ不十分。農協の箱苗を植えるのでは、苗になるまでに農薬も化学肥料も使われている。5年目から、棚田で採れた籾からの苗作りを始めた。苗作りで失敗なんて話は周囲で聞いたことがなかったが、悔しいことに3年続けて芽も出なかった。一旦諦めたが更に3年後、美麻より30km南の安曇野・池田でやってみたら気候のせいかな今度

棚田散歩

長野県大町市美麻

はできた。まばらな苗で手植えでしか使えなかったが、今年はずいに念願の苗がびっしりの箱苗ができ、田植機で大きめの田んぼに植えられて順調に育っている。本物の景色にかなり近づいてきた。つながる“可能性は低い”が、あと5年ぐらいは続けられると思う。



編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



日本酒

秋山裕一著
岩波新書
1994年4月



大八洲豊葦原の瑞穂の国、みずみずしい稲穂から美味しい美味しいご飯が炊ける。始めチヨロチヨロ中パツパツブツ時に火を引いて赤子泣くとも蓋取るな。この一時間でこの国に生まれた幸せをしみじみ感じる事ができるひと時が来る。

でももう少し時間をかけると別の楽しみを味わう事が出来る日本酒が醸しだされる。日本酒が世界に類を見ない併行複発酵の酒であること、アルコール濃度が最も高くなる発酵酒であることなどを知るとちよっと嬉しくなって日本酒を楽しめる。

※絶版のため、古書・図書館などで探してみてください。

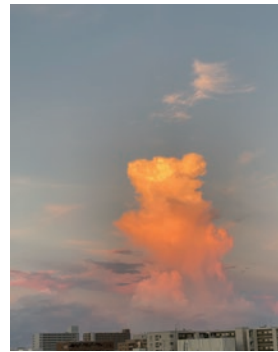
棚田俳壇

令和4年

誌上添削

■ ヒント
 秋暑し負けるものかと思ひけり
 「思い」よりもっと具体的に
 ※解答は下記【次回募集は11月末日】

本人しろうと五七五



そそり立つ雲の巨人も朝焼けて

草刈りの香り懐かし散歩道
 池巡りはたと気づくや 蝉鳴かぬ
 土用過ぎ波高くなる 父の声
 麦畑 虫籠持ちて 兄の伴

浜松市 一露

向日葵と色競いたる 学校田
 カナカナで 暑さ送りて 一休み
 山の田も色づいたかな見にゆかん
 久々に 笛太鼓鳴り 台車が行く

新潟市 田入絵人

紅づく葉落ちてたまるかど 蝉の殻
 鷺一羽着かず離れずコンバイン
 それ急げ台風にらみ 稲を刈り
 お役御免 緑のカーテンに 瓜ひとつ

所沢市 上久保郁夫

街路樹の影に密集 蝉しぐれ
 猛暑でも トマトたわわにみのりたり
 待ち望む 夜空彩る 花火かな
 草刈りや 猪荒らす 稲穂あり

取手市 杉山行男

ふるさとに 三年越しの花火の音
 新米のおにぎり 頬張る 畔の上
 芽づるを 返して空は 茜色
 せわしくも 時は流れて 稲実る

豊島区 小川順子

青田わたる鳥と昆虫 空中戦
 赤とんぼ 帽子にとまり ラジオ聞く
 田植え歌今は聞こえず 機械音
 土砂降りも 命の限り 蝉の鳴く
 蝉殻を 拾って愛する その一生
 酷暑豪雨 戦乱やまず 今朝の秋
 甲子園 熱血見去り 今朝の秋
 秋風や 喉音立てて しじみ汁

調布市 高木宏明



解答例：秋暑し負けるものかと思ひけり

棚田ネットスタッフの
 つぶやき
 〈輪番制〉

今回のつぶやき人
 事務局 ドラゴンフライ

7月16日に放送されたNHK「プラタモリ」の「能登半島の回」ご覧になった方も多いのではないのでしょうか。天候が悪かったのが少し残念でしたが、オープニングから冒頭4分の1くらい、たっぷりと白米千枚田が説明されていました。相変わらず、タモリさんはいろいろと察しがいいですね。(エンドロールに「取材協力」として中島先生のお名前が出ていました。)

私はこの回を見ていて、「そういえば」と、あることを思い出しました。棚田ネットワークの事務局のお手伝いをするようになって6年目になりますが、私はほとんど現場に行ったことがないのです。2018年の5月と9月に、東京から遠くなくて、「駅から歩ける棚田」である、埼玉県横瀬町の寺坂棚田を見に行ったのみです。

大きな理由としては、私が現在2種類の持病を抱えていて、棚田に限らず遠出がしにくいことが挙げられます。遠出の際に多くの医薬品を持ち歩くのが億劫なこともありませんが、睡眠不足や倦怠感などの直接的症状の他にも、間接的な影響で頻尿の症状もあり、日中は1〜2時間に1回はトイレに行く状況ですので、遠距離の移動にはちよつとした「怖さ」があります。

東京在住ですので、遠距離の移動を伴わない棚田はあまりないのです。体調の波がいい方に傾く時期があればの話ですが、寺坂再訪を含め、千葉県鴨川市など行ってみたいとは思っています。

最後に写真を一枚。2018年9月、寺坂棚田の稲と彼岸花です。携帯で撮ったので解像度が低いです。ご容赦ください。棚田の反対側に聳える武甲山も格好良かったです。



千葉県鴨川市

川代棚田でお米づくり

稲刈り準備の草刈りに参加



昨年は、私たちがお世話になっている鴨川市川代集落が栄えある棚田学会賞を受賞し、今年は農水省の「つなぐ棚田遺産」に認定されるなど、集落みんなで棚田オーナー制をはじめとした都市と農村交流を続けてきたことが、評価されてきました。8月28日も生憎の雨降りでしたが、オーナーさんと集落総出で草刈りを行い、次の週の稲刈りの準備ができました。

今年は今のところ台風の被害もなく生育は順調で、一部イノシシが稲穂を食べた痕や倒されたところもありますが、稲刈りは9月4日無事できることを祈るばかりです。

新型コロナウイルスの終息が見通せない状況に加え、ウクライナとロシアの戦争による小麦など食料品の値上がりなど、棚田を含む農業の大切さを感じる人が増えているように思います。川代棚田の農作業体験を通じて、多くの皆さまに気軽に参加していただけるよう今後とも続けていきます。

(杉山行男・小川順子)

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

「こどもビオトープ観察会」開催



七十二候の天地始肅てんちはじめてさむしの頃、8月28日(日)にこどもビオトープ観察会を開催しました。「天地始肅」は「暑さがようやくおさまってくる頃」ということですが、確かに坂折棚田は少し秋の気配を感じました。参加者は10名(大人4名、子供6名/幼稚園児中心)、近在の方々が参加してくれました。

今回はサワガニ7匹、ゴマダラカミキリ1匹、イナゴの仲間13匹、キリギリスの仲間1匹、ショウリョウバッタ2匹、オンブバッタ3匹、シオカラトンボ2匹、ミヤマアカネ1匹、ショウジョウトンボ1匹という結果でした。凶鑑で確認する前に、生き物好きな子供が教えてくれるので、調べる手間が省けました。植物については香りが良く、ちょうど今咲くズの花を紹介しました。小さな子供が「ブドウジュースの匂い」と教えてくれましたが、まさにその通りの甘い香りだと思います。また、岐阜県の農村環境について紹介するVR撮影がありました。1分弱の長さとのことですが、どのように公開されるのか楽しみです。次回はいよいよ稲刈りです。

(相田 明)

静岡県松崎町

石部棚田で昔ながらの米づくり

草刈りと草取り



7月2・3日に1回目の畦の草刈りと田の草取りのボランティア作業を行いました。酷暑の中、12名の常連メンバーが集まってくれました。7月の作業で大切なのは、畦の草を刈り畦周りの水の流れを整えることと、稲を擬態して生息する「ノビエ」を見つけ出して抜くこと。ノビエをここで見逃すと8月には、その旺盛な繁殖力で稲を圧倒し、出穂して種を撒き散らしてしまいます。今年もノビエは、おそらく田の20%を占めていて、とにかくノビエの駆除に翻弄されました。2回目は毎年参加者が少なく、8月20・21日に少数精鋭で行いました。台風8号の影響で集落から棚田へ登る道が壊れましたが、棚田の被害は殆どなく、先人たちが作った大水を逃がす棚田の地下構造の凄さを改めて思い知らされました。稲刈りは体験イベントとして、10月8日(土)9日(日)に開催予定です。

(高桑 智雄)

旧暦 棚田 ごよみ

今年もできました!

使いづらい、だけど美しい! 始めてみよう『旧暦生活』

月の満ち欠けでひと月を知り、太陽の動きで季節の移り変わりを感じていた「旧暦」での暮らし。旧暦棚田ごよみは、四季折々の美しい棚田の風景とともに、暦で「季節感」を味わうことのできる旧暦カレンダーです。

壁掛けタイプ

A4(縦210×横297mm) ※開くとタテA3サイズ



旧暦がわかる『ミニブック』付いています!



四季折々の棚田風景

二十四節気七十二候雑節を表示

新暦表示もあり!

月の満ち欠けイラスト入り!

注文サイトQRコード



5部セットがお得!
贈答用にどうぞ!

¥1,300(税込)

5部セット

¥6,000(税込)

※送料は別途かかります。

ご購入は TEL. 03-5386-4001 もしくは棚田ネットワークHPから
●お電話受付時間 13:00 ~ 16:00 ※土日祝をのぞく

※このカレンダーは、旧暦の元日(令和5年1月22日)から始まります。
新暦表示は令和5年1月22日(日)から令和6年2月9日(金)までです。



わたしたちと『棚田の応援団』、やりませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になろう!

年会費

私たちは、会報誌「棚田に吹く風(年4回)」やホームページで豊富な棚田情報を発信しています。会員になりこれらの活動に参加してみませんか?

- 個人会員
 - 維持会員 1口1万円(1口以上)
 - 一般会員 4,000円
 - 応援会員 3,000円
 - 学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちは、棚田を守るため、農山村の人々と都市住民双方の協力ののもとに様々なプログラムを企画・運営しています。これらの社会貢献活動に賛同し、ご支援いただける企業・団体・事業主様を募集しています。詳細はお問い合わせ下さい。

年会費

- 法人会員(賛助会員) 1口3万円(1口以上)

ホームページの姿を見よう!

棚田ネットのWebサイトも見てみてください!



<https://www.tanada.or.jp>

編集部から

今号の特集は「棚田マニア×鉄オタ」企画です。マニアとオタクの違いは言語学上いろいろと説があるようですが、マニアは社会において希少性のある事物に対して、過度な保護意識と優越的愛情を示すのに対し、オタクは社会に支持されなくても、あくまで自分の好きなものに人生をかけて愛情とお金を注ぐといったニュアンスの違いがある気がします。その意味で、やはり「棚田好き」はマニアであってオタクの世界ではないのでしょうか、「私はどこぞの棚田推し!」「この棚田の曲線は神!」といった「棚オタ」の世界線があってもいい時代なのかなと思う今日この頃です。



2022年 秋号 Vol.125

発行 認定NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp
郵便振替口座 : 00100-7-151565